

Use of 2 Types of Air-cell Mattresses for Pressure Ulcer Prevention and Comfort Among Patients With Advanced-stage Cancer Receiving Palliative Care: An Interventional Study

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060012

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

学籍番号 1429022022

氏 名 丸谷 晃子

論文審査員

主 査(職名) 表 志津子 (教授)

副 査(職名) 須釜 淳子 (教授)

副 査(職名) 大桑 麻由美 (教授)



論文題名 Use of 2 Types of Air-cell Mattresses for Pressure Ulcer Prevention and Comfort Among Patients With Advanced-stage Cancer Receiving Palliative Care: An Interventional Study
緩和ケアを受ける進行がん患者における褥瘡予防と寝心地に対する 2 種類の
エアセルマットレスの有用性：介入研究

論文審査結果

【論文内容の要旨】

緩和ケアを受ける進行がん患者の褥瘡有病率は 22.6%と高く、褥瘡ハイリスク状態の患者に対しては褥瘡予防ガイドラインに準拠すると、エアマットレスを使用することが推奨されている。しかし患者の中には、エアマットレスの寝心地の不快さを理由にエアマットレスの使用を拒否し、褥瘡が発生している。また、進行がん患者の症状（痛み、倦怠感等）は日ごとに異なる中で、それに合わせたマットレスの交換は、患者にとって負担があり、現実的ではない。本研究は、進行がん患者に対しデュアルフィットエアマットレスの褥瘡予防と寝心地を評価することを目的とした。方法は無作為化比較試験である。対象の組入基準は褥瘡ハイリスク状態の緩和ケアを受ける進行がん患者であり、介入群は患者の活動性と可動性に対応するようエアマットレスの内圧調整機能を有するデュアルフィットエアマットレス使用、対照群は 2 層式エアセルマットレスを使用し、正しく動作されたことを確認した。また、体圧分散寝具以外の褥瘡ケアは施設の皮膚・排泄ケア認定看護師および病棟スタッフにより同様に提供された。メインアウトカムは両群の褥瘡発生率と寝心地（安静時・活動時）であった。結果は、適格性評価 123 名、ランダム化 73 名、解析対象者は介入群 23 名、対照群 29 名であった。基本属性・身体状態に有意差は無かったが、骨突出部の接触圧は介入群 27.0mmHg、対照群は 24.3mmHg と有意差があった ($p=0.03$)。褥瘡発生は介入群 13.0%、対照群 17.2%と有意差はなかった ($p=0.49$)。寝心地は、安静時において、「沈み込み」「ずれ」「背部圧迫感」の不快感が介入群は有意に低く ($p=0.01$, <0.00 , <0.00)、活動時において、「動作姿勢が不安定」「臀部浮遊感」の不快感が介入群は有意に低かった ($p<0.00$, <0.00)。

【審査結果の要旨】

緩和ケアを受ける進行がん患者の褥瘡発生と寝心地追及という相反する課題の解消を目指し、無作為化比較試験を行い、その効果を確認できたことは、進行がん患者の QOL 維持向上に大いに貢献する。質疑応答では、研究デザインに基づく手順や分析方法について、また研究の限界について適切に述べていた。分析の視点についてもさらに考察を深めることができた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。